

衝突・乗揚事故に注意!

衝突・乗揚事故を防止するために

① 事前の水路調査

乗揚事故を防ぐため、事前の水路調査を確実に実施しましょう。海図等により航海海域にある浅瀬等の危険な海域や定置網等の存在を把握しておきましょう。

② 見張りの徹底

「見張り不十分」を原因とする衝突事故が多発しています。航海中は常に適切な見張りを徹底し、早めの避航動作をとりましょう。特に、漂流・錨泊・操業・遊漁中は作業に夢中になり周囲の見張りがおろそかになりがちなので、意識して見張りを行いましょう。

③ 船舶間コミュニケーションの促進

早期に船舶間の意思疎通を図り、相手船の動向を把握しましょう。

- ・ 早めに相手船にわかりやすい動作をとる
- ・ VHFや汽笛信号等を活用する
- ・ AIS情報を活用するとともに、正しい情報を入力する

④ 居眠りに注意

居眠り防止装置の使用や見張りを交代し休息を取るなどの対策を講じましょう。

⑤ 自動操舵使用時は注意

自動操舵装置を使用中の「見張り不十分」、「居眠り運航」による衝突・乗揚事故も後を絶ちません。

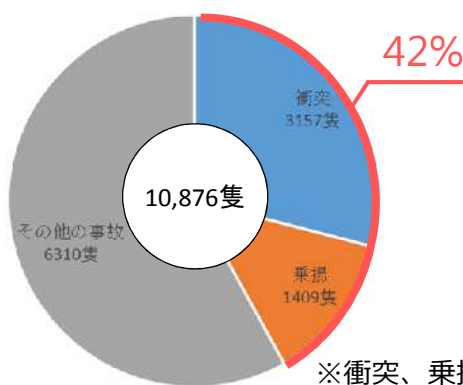
居眠り防止のため、装置に付属するアラーム機能を導入・利用しましょう。また、次の場合は手動操作に切り替え、安全に操船しましょう。

- ① 港内
- ② 船が多い海域
- ③ 荒天、視界不良時
- ④ 周囲に浅瀬等がある場合
- ⑤ 潮流が強い狭水道
- ⑥ 他船が接近するとき
- ⑦ 針路を変えるとき など

過去5年間における船舶事故の特徴

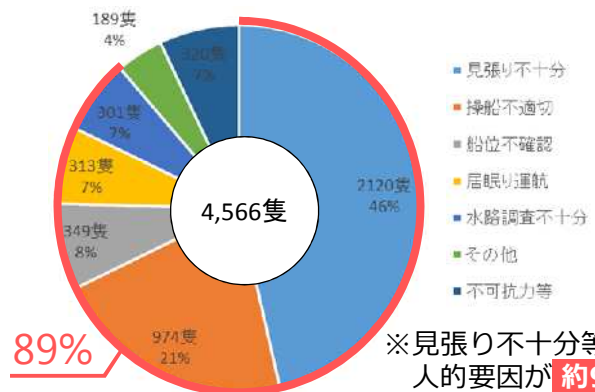
※平成24年～平成28年

○ 船舶事故の種類



※衝突、乗揚が約4割

○ 衝突・乗揚事故の原因



※見張り不十分等の人的要因が約9割